

兵庫県住宅再建共済制度に関する調査結果報告書

(概要版)

平成18年12月

兵 庫 県

財団法人兵庫県住宅再建共済基金

目 次

I	調査の概要について	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
	（1）調査地域	1
	（2）標本数	1
	（3）調査方法	1
	（4）調査時期	1
	（5）その他	1
3	回収結果	1
4	標本抽出方法	1
	（1）加入者	1
	（2）県民	1
II	調査の結果について	2
1	加入者	2
	（1）加入動機	2
	（2）満足度	2
	（3）認知経路	3
	（4）加入申込書入手先	4
2	未加入者	5
	（1）制度の認知度	5
	（2）認知経路	5
	（3）将来加入の意向	6
	（4）加入したいと思わない理由	7
3	その他	8
	（1）他の人への推奨の意向	8
	（2）損害保険等への加入状況	8

I 調査の概要について

1 調査の目的

兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)は、阪神・淡路大震災で学んだ教訓「助け合いの大切さ」を生かした住宅所有者間相互の「共助」の仕組みとして、平成17年9月1日から制度を開始した。

本調査は、制度への加入の有無、加入者の加入動機、満足度、制度の認知度、未加入の理由などを調査し、地域や年代別に分析することにより、効果的な広報・加入促進策に反映させることを目的とする。

2 調査対象

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 標本数
 - ① 住宅再建共済制度加入者 2,000人
 - ② 兵庫県内で住民基本台帳に登録している県民 2,900人
- (3) 調査方法 郵送法(葉書による督促1回)
- (4) 調査時期 平成18年10月12日から10月30日
- (5) その他 世帯主による回答を依頼した。

3 回収結果

	加入者	県民			合計
		加入者	未加入者	小計	
送付数(件)	2,000	—	—	2,900	4,900
回答数(件)	1,076	124	567	691	1,767
回収率(%)	53.8	—	—	23.8	36.1

4 標本抽出方法

- (1) 加入者
 - ① 母集団：兵庫県住宅再建共済制度の加入者を母集団とした。
 - ② 標本配分：各地域ごとに200の標本を配分した(合計2,000人)。
 - ③ 抽出方法：層化二段抽出法により対象者を抽出した。
- (2) 県民
 - ① 母集団：兵庫県内で住民基本台帳に登録している県民を母集団とした。
 - ② 標本配分：各地域ごとに300(丹波地域においては200)の標本を配分した。
(合計2,900人)。
 - ③ 抽出方法：層化多段抽出法により対象者を抽出した。

II 調査の結果について

1 加入者

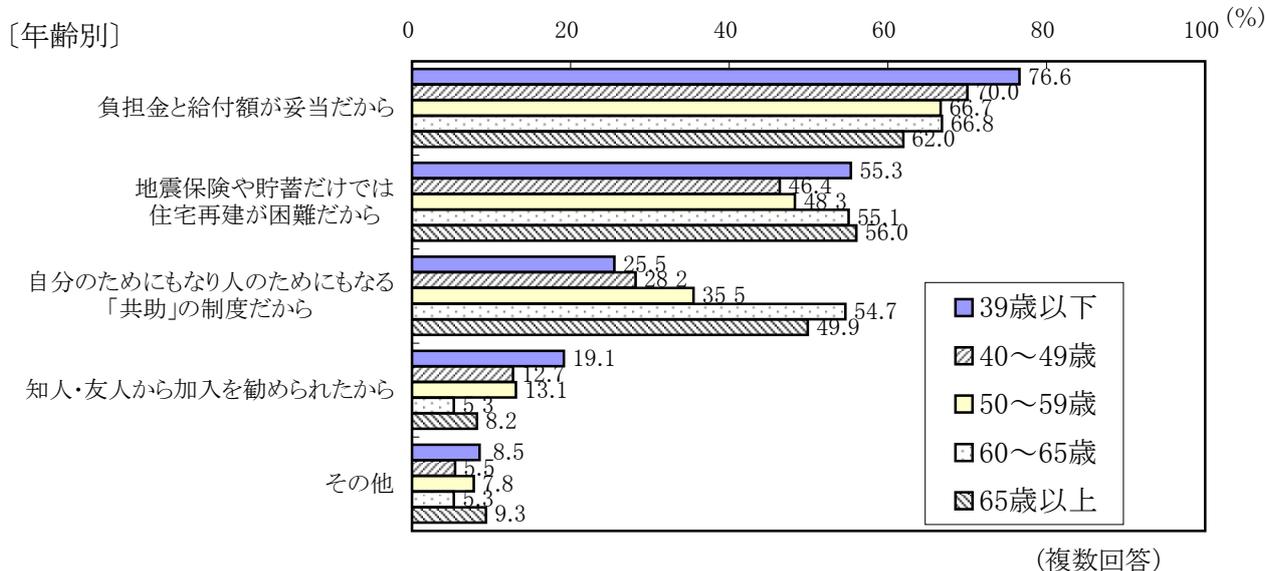
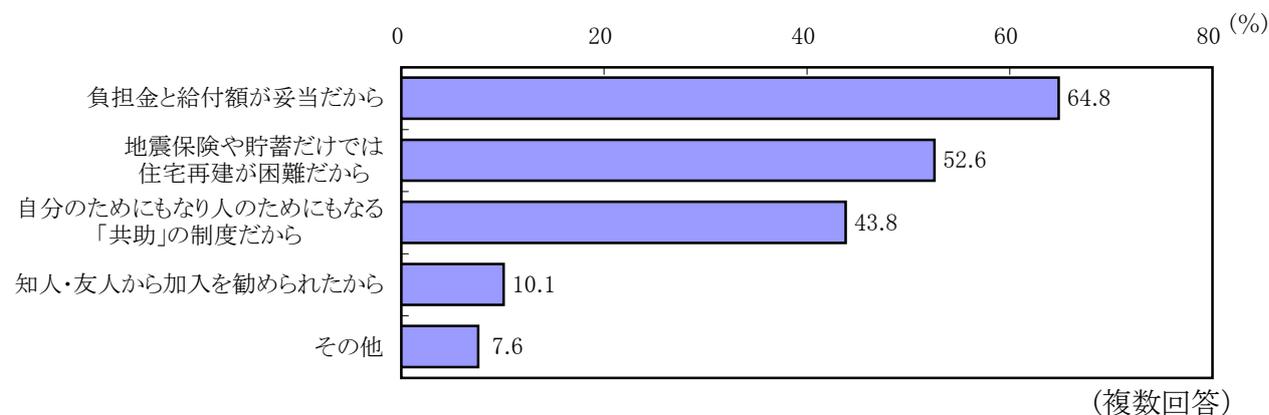
(1) 加入動機

☆「負担と給付が妥当」(約6割)、「保険や貯蓄だけでは再建が困難」(約5割)、「共助の制度だから」(約4割)が上位

☆年齢層が高いほど「共助の制度だから」が多い傾向

制度に既に参加している人の加入動機は、「負担金と給付額が妥当だから」(64.8%)という理由が最も多く、次いで「地震保険や貯蓄だけでは住宅再建が困難だから」(52.6%)、「自分のためにもなり人のためにもなる『共助』の制度だから」(43.8%)などが多くなっている。

年齢別にみると「負担金と給付額が妥当だから」は年代が若いほどこの理由を選ぶ傾向が強く出ている。「自分のためにもなり人のためにもなる『共助』の制度だから」は、概ね年齢が高いほどそれを理由とする傾向がある。

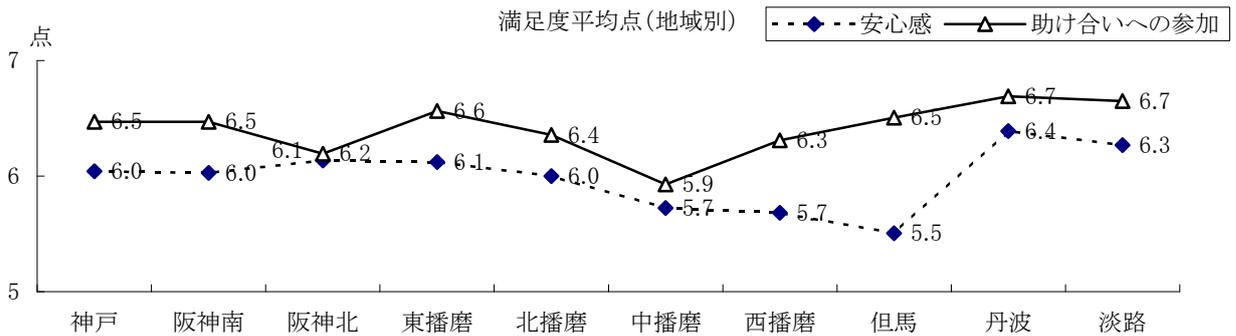
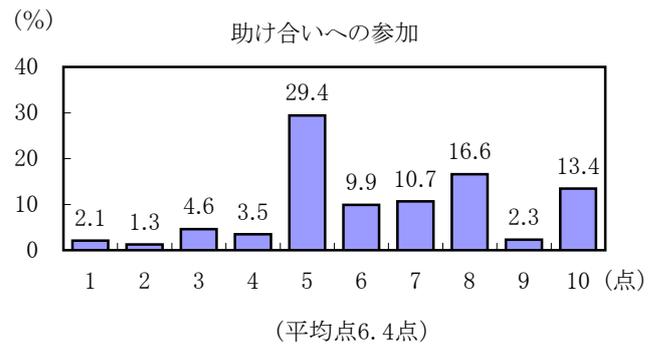
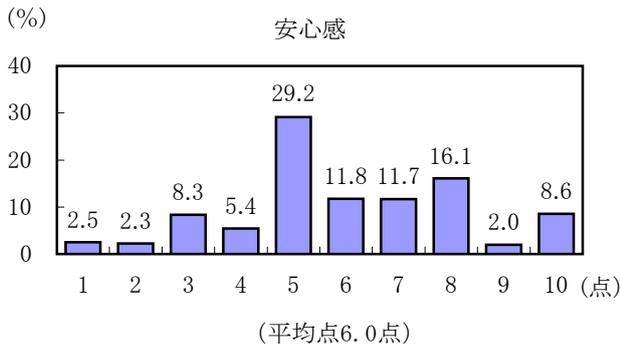


(2) 満足度

☆満足度は10点満点中、「安心感」6.0点、「助け合いへの参加」6.4点の評価

制度に参加して、どの程度満足感を感じているかを10点満点で評価してもらったところ、「A 安心感」については平均6.0点、「B 助け合いへの参加」については平均6.4点となり、どちらも「やや満足」という評価となっている。

地域別に平均点をみると、阪神北では「A 安心感」と「B 助け合いへの参加」に対する満足度がほぼ同じであるのに対し、但馬では「B 助け合いへの参加」に対する満足度は高いものの「A 安心感」では低く、最も差が大きい。

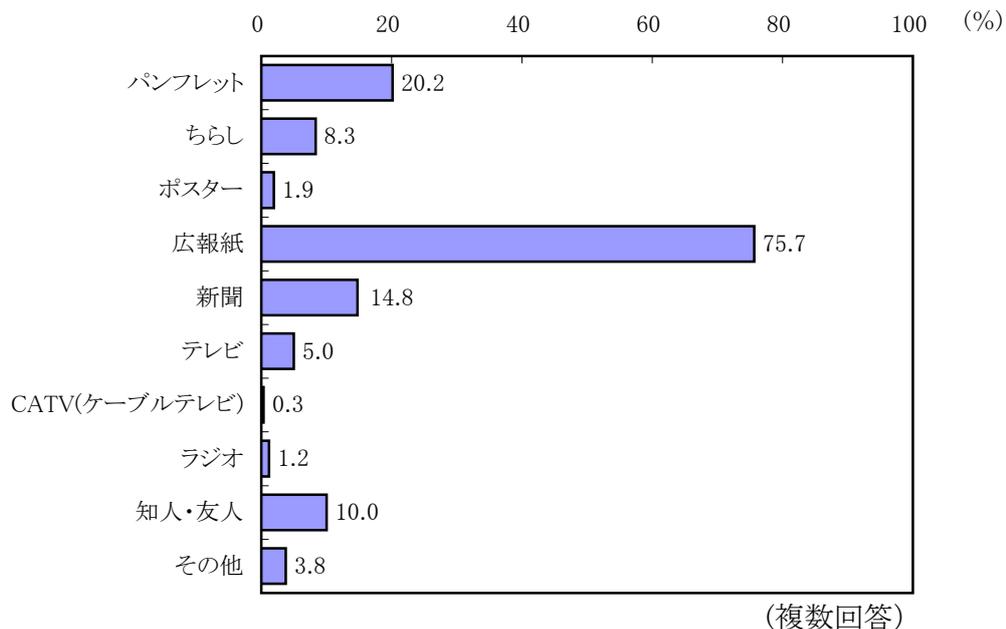


(3) 認知経路

☆制度の認知経路は、県や市町等の「広報紙」が回答者の4分の3

制度の認知経路は県や市町等の「広報紙」が最も多く75.7%、およそ4人に3人が回答したことになる。次いで、「パンフレット」(20.2%)、「新聞」(14.8%)、「知人・友人」(10.0%)などが続く。

地域別にみると、淡路では「広報紙」が85.6%と特に高い。また、西播磨の「知人・友人」(23.5%)、神戸の「新聞」(22.5%)、北播磨の「ちらし」(14.7%)などが他地域に比べて高くなっている。



〔地域別〕

(%)

	全体	パンフレット	ちらし	ポスター	広報紙	新聞	テレビ	CATV(ケーブルテレビ)	ラジオ	知人・友人	その他	不明
合計	100.0	20.2	8.3	1.9	75.7	14.8	5.0	0.3	1.2	10.0	3.8	0.8
神戸地域	100.0	20.8	5.0	1.7	75.8	22.5	8.3	0.0	0.8	4.2	5.0	0.8
阪神南地域	100.0	20.9	12.2	2.6	72.2	13.9	2.6	0.0	0.9	7.8	3.5	0.0
阪神北地域	100.0	22.0	10.2	1.6	68.5	18.9	3.9	0.0	0.0	5.5	3.9	0.8
東播磨地域	100.0	23.5	11.3	2.6	76.5	19.1	5.2	0.9	0.9	3.5	1.7	0.9
北播磨地域	100.0	22.0	14.7	1.8	74.3	18.3	8.3	0.0	4.6	4.6	2.8	0.0
中播磨地域	100.0	19.8	4.7	0.0	74.5	17.0	4.7	0.0	0.9	14.2	4.7	0.9
西播磨地域	100.0	17.6	6.7	1.7	70.6	6.7	4.2	0.0	1.7	23.5	5.9	0.0
但馬地域	100.0	18.5	8.4	1.7	79.0	9.2	4.2	2.5	0.8	9.2	5.0	0.8
丹波地域	100.0	22.1	6.7	2.9	79.8	9.6	1.9	0.0	1.0	12.5	4.8	1.9
淡路地域	100.0	20.7	5.4	3.6	85.6	13.5	7.2	0.0	0.9	10.8	1.8	1.8

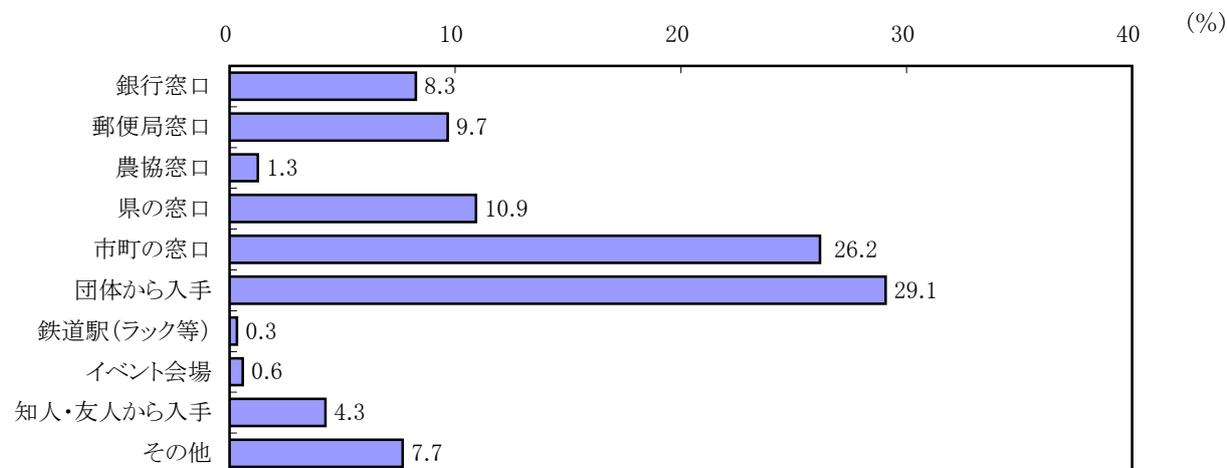
(複数回答)

(4) 加入申込書入手先

☆加入申込書の主な入手先は、「団体から入手」や「市町の窓口」でそれぞれ3割近い

加入申込書の入手先は、「団体から入手」が最も多く29.1%、次いで「市町の窓口」が26.2%となっており、この2つの経路が主な入手先となっている。以下、「県の窓口」(10.9%)、「郵便局窓口」(9.7%)、「銀行窓口」(8.3%)などが続く。

地域別にみると、神戸や阪神南では「銀行」や「郵便局」などの金融機関窓口が比較的多くみられ、但馬では「市町の窓口」が、西播磨や丹波で「団体からの入手」がそれぞれ4割を超えるなどの特徴がみられる。



(複数回答)

〔地域別〕

	全体	銀行窓口	郵便局窓口	農協窓口	県の窓口	市町の窓口	団体から入手	鉄道駅(ラック等)	イベント会場	知人・友人から入手	その他	不明
合計	100.0	8.3	9.7	1.3	10.9	26.2	29.1	0.3	0.6	4.3	7.7	5.1
神戸地域	100.0	13.3	19.2	0.8	11.7	14.2	18.3	1.7	2.5	2.5	14.2	3.3
阪神南地域	100.0	10.4	19.1	0.0	11.3	18.3	20.0	0.0	0.0	5.2	13.0	4.3
阪神北地域	100.0	8.7	11.8	0.0	13.4	23.6	22.8	0.8	0.8	2.4	14.2	3.9
東播磨地域	100.0	12.2	7.8	1.7	12.2	20.9	33.9	0.0	0.0	2.6	9.6	2.6
北播磨地域	100.0	10.1	11.9	0.0	15.6	23.9	25.7	0.0	0.0	1.8	5.5	7.3
中播磨地域	100.0	10.4	7.5	0.9	9.4	24.5	34.0	0.9	0.9	7.5	2.8	2.8
西播磨地域	100.0	4.2	5.9	1.7	5.9	24.4	40.3	0.0	0.0	13.4	3.4	5.0
但馬地域	100.0	4.2	2.5	2.5	9.2	44.5	31.9	0.0	0.0	1.7	3.4	5.0
丹波地域	100.0	4.8	4.8	0.0	9.6	30.8	43.3	0.0	1.9	1.9	3.8	5.8
淡路地域	100.0	5.4	5.4	0.9	11.7	34.2	28.8	0.0	0.0	3.6	5.4	9.0

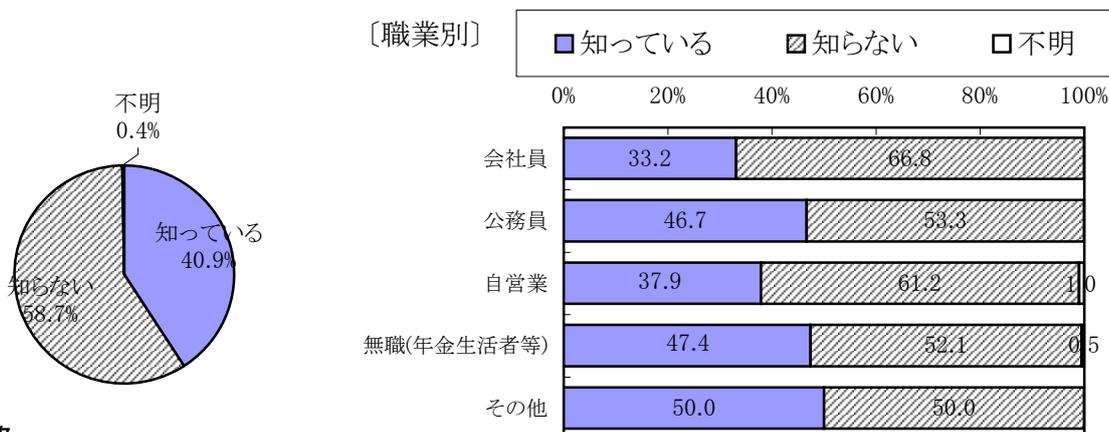
(複数回答)

2 未加入者 (1) 制度の認知度

☆未加入者の制度の認知度は約4割

一般の県民から抽出した対象者のうち、制度の未加入者に制度を知っているかどうかたずねると、4割(40.9%)が「知っている」と回答し、「知らない」は58.7%であった。

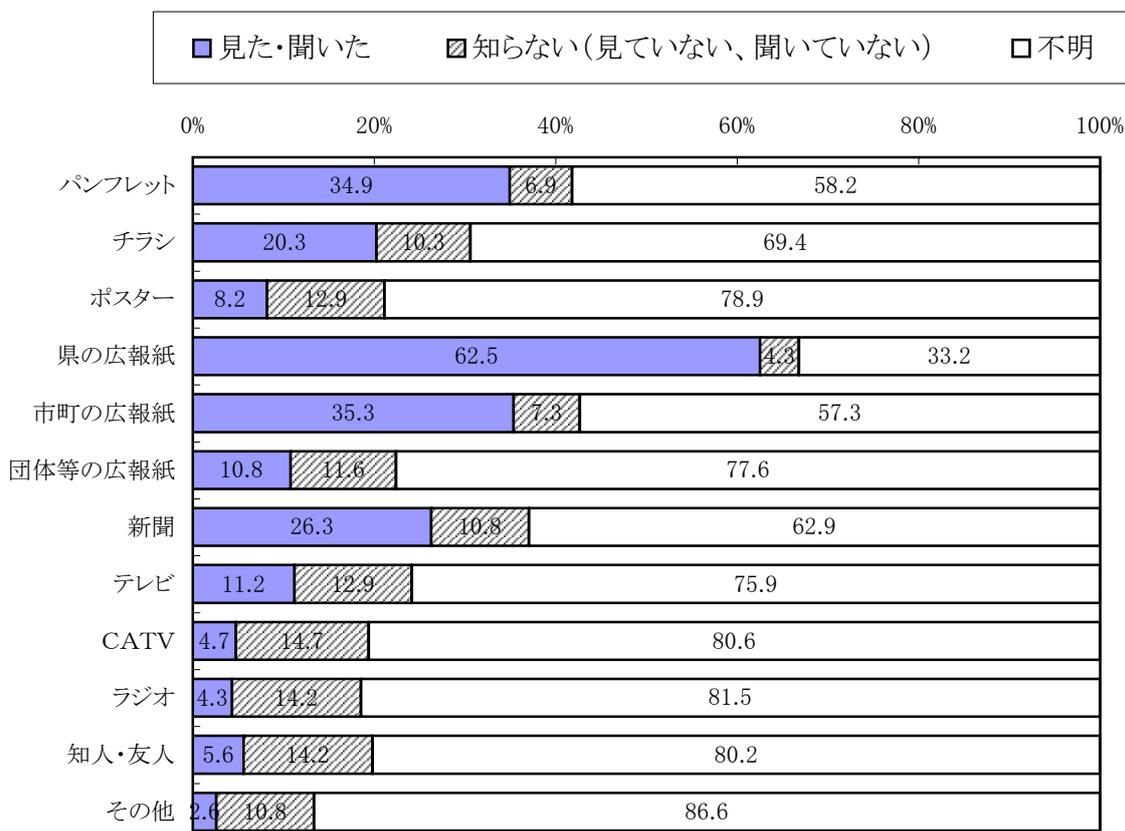
職業別では、無職(47.4%)、公務員(46.7%)で認知度が高くなっている。



(2) 認知経路

☆制度の認知経路は、「県の広報紙」が最も多く、6割以上

制度について「知っている」と回答した232人に対し、その認知経路をたずねると、最も多かったのは「県の広報紙」で62.5%、次いで「市町の広報紙」が35.3%、「パンフレット」が34.9%、以下「新聞」(26.3%)、「チラシ」(20.3%)、「テレビ」(11.2%)と続いている。



(3) 将来加入の意向

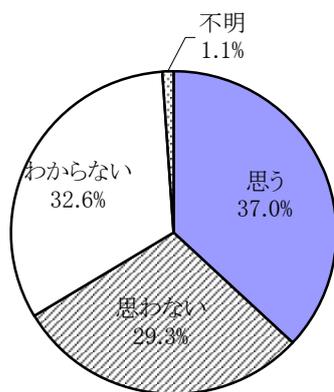
☆「加入したいと思う」(約4割)が、「思わない」(約3割)を上回る

制度の概要を説明した上で、将来この制度へ加入したいかをたずねると、「加入したいと思う」という回答が約4割(37.0%)で、「思わない」という回答約3割(29.3%)を上回った。一方で、「わからない」という回答も約3割(32.6%)となっている。

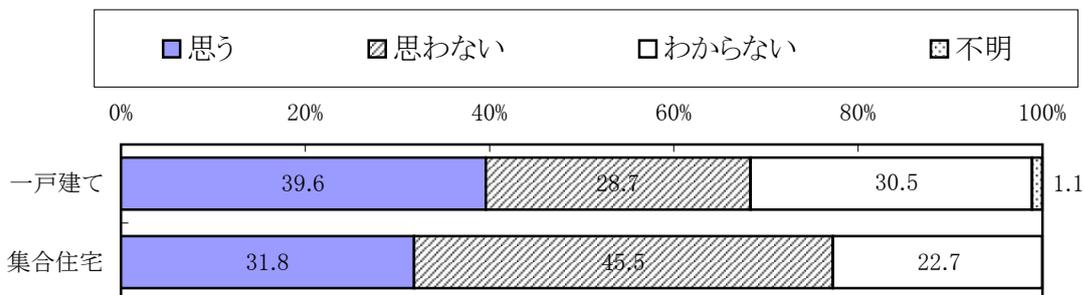
住宅所有者の住宅形態別に見ると、「一戸建て」で39.6%、「集合住宅」で31.8%が「加入したいと思う」と回答している。

職業別では「自営業」の人が最も加入意向が高く47.6%、最も低いのは「無職」の30.3%であった。

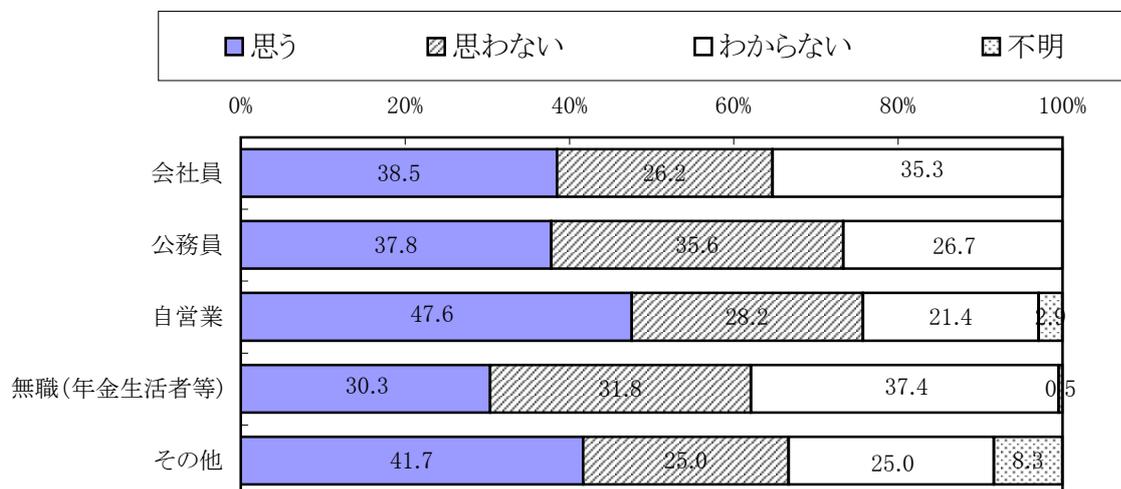
住宅の築年数別にみると、「10～25年未満」の住宅居住者で「加入したいと思う」という回答が47.2%と高くなっており、「5～10年未満」の居住者で29.3%と比較的低くなっている。



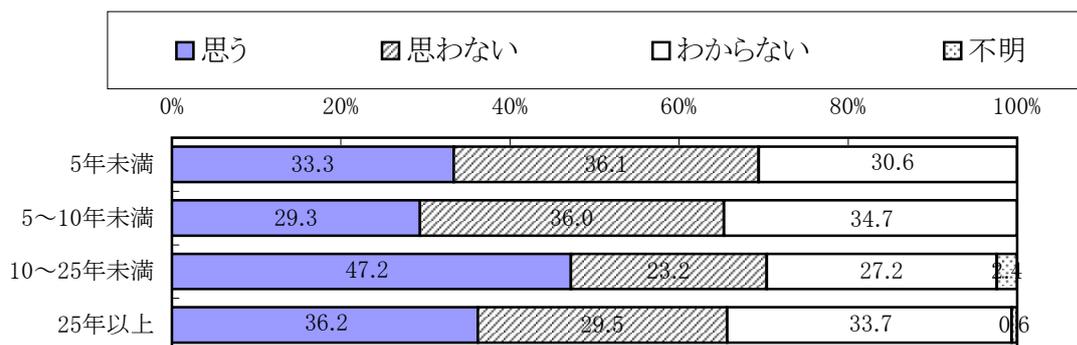
[住宅所有者の住宅形態別]



[職業別]



〔住宅の築年数別〕

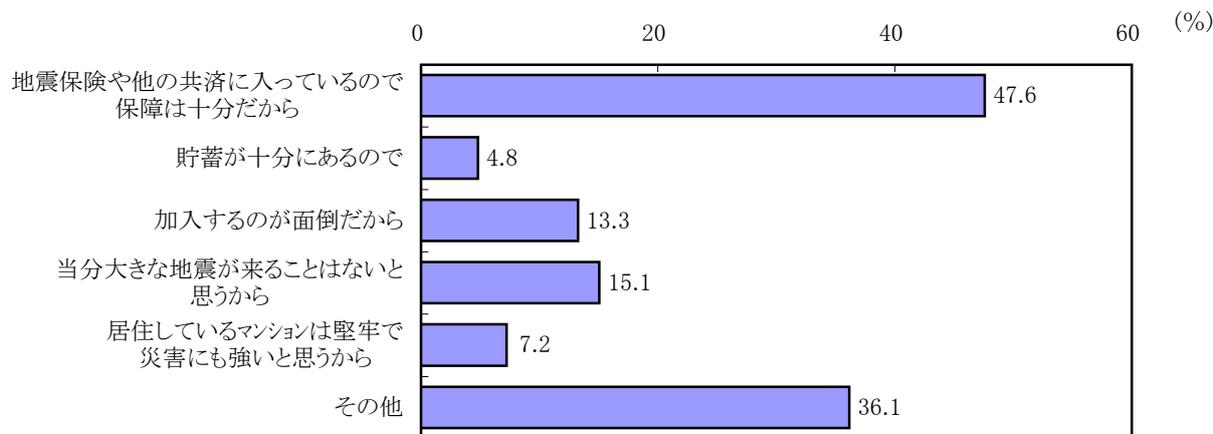


(4) 加入したいと思わない理由

☆「地震保険や他の共済に加入しているので保障は十分」が最も多く、約5割

加入したいと思わないと回答した人の理由は、「地震保険や他の共済に入っているので保障は十分だから」と考えている人が半数近い47.6%で最も多かった。「当分大きな地震がくることはないと思うから」(15.1%)、「加入するのが面倒だから」(13.3%)、「居住しているマンションは堅牢で災害にも強いと思うから」(7.2%)、「貯蓄が十分にあるので」(4.8%)の順となっている。

地域別に見ると「地震保険や他の共済に入っているので保障は十分だから」がどの地域でも最も多くなっているが、「当分大きな地震がくることはないから」という回答が、但馬、神戸、阪神南、東播磨で2割を超えており、他の地域より多くなっている。



(複数回答)

〔地域別〕

	地震保険や他の共済に入っているので保障は十分だから	貯蓄が十分にあるので	加入するのが面倒だから	当分大きな地震がくることはないと思うから	居住しているマンションは堅牢で災害にも強いと思うから	その他
合計	47.6	4.8	13.3	15.1	7.2	36.1
神戸地域	38.9	0.0	16.7	22.2	5.6	61.1
阪神南地域	55.6	5.6	11.1	22.2	22.2	22.2
阪神北地域	30.4	8.7	13.0	17.4	4.3	47.8
東播磨地域	35.7	7.1	21.4	21.4	7.1	28.6
北播磨地域	56.5	13.0	21.7	17.4	0.0	26.1
中播磨地域	55.6	0.0	5.6	5.6	11.1	44.4
西播磨地域	57.9	0.0	21.1	5.3	5.3	26.3
但馬地域	45.5	9.1	9.1	27.3	9.1	9.1
丹波地域	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5
淡路地域	45.5	0.0	0.0	0.0	9.1	45.5

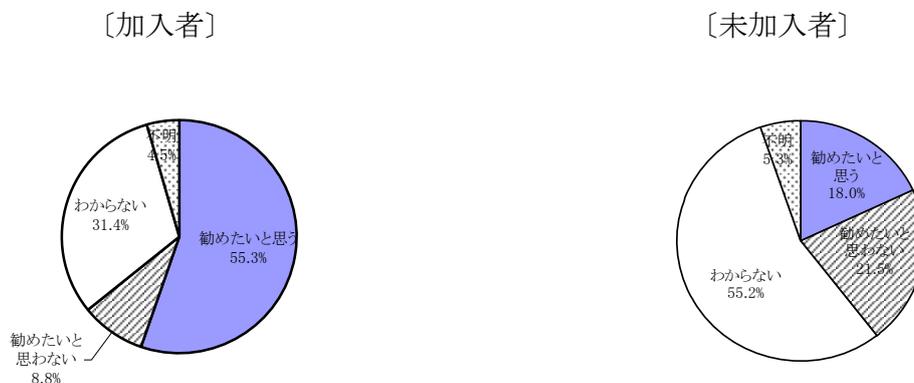
(複数回答)

3 その他

(1) 他人への推奨の意向

☆加入者の5割以上が、他の人にも「この制度への加入を勧めたい」と回答
 ☆未加入者は、「加入を勧めたいと思わない」(2割強)が「勧めたいと思う」(2割弱)をやや上回る

この制度を、住宅を持つ親類や知人・友人に対して勧めたいと思うかどうかについては、加入者の半数以上の55.3%が「勧めたいと思う」と回答しており、「勧めたいと思わない」は8.8%と少ない。一方、未加入者では、「勧めたいと思わない」という回答が21.5%で、「勧めたいと思う」18.0%を上回った。

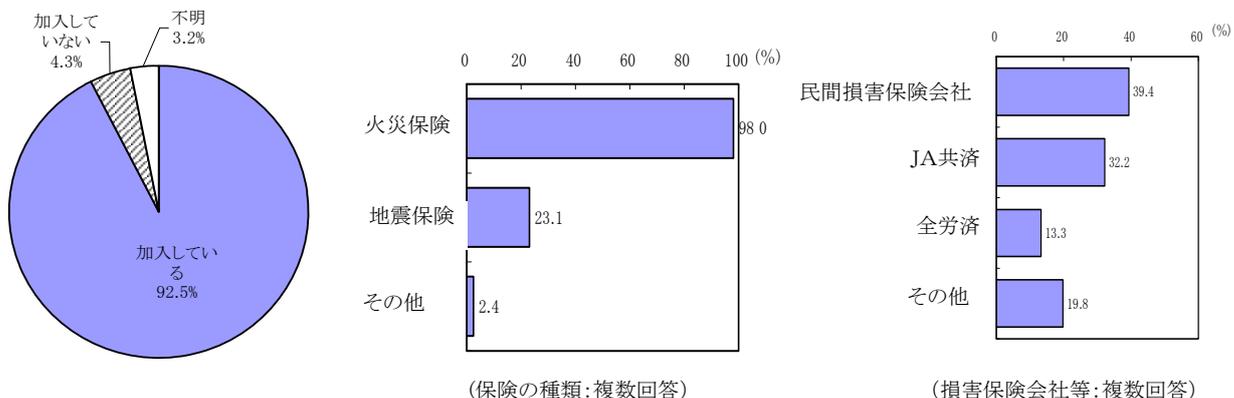


(2) 損害保険等への加入状況

☆加入者の方が、未加入者に比べて、損害保険等への加入率が高い

制度加入者と未加入者の損害保険等への加入状況を比較すると、損害保険全般への加入率、地震保険への加入率について、制度加入者の方が高い。加入している保険会社等は加入者では民間損害保険会社が、未加入者ではJA共済が多くなっている。

[加入者]



[未加入者]

